

平成二十七年十二月号

鉄骨

佐怒賀正美

杭百本地下へ打込む神の留守

鉄骨にべビー毛布の飛んできぬ

悼・松本旭先生

子らの歌流るる秋の夜を悼む

宇和島・みかんの里俳句大会吟行 二句

亥の子唄ゑびすの旗は裏返り

口舌を烈しくそろへ亥の子唄

平成二七年十一月号

栗食うて

佐怒賀正美

大腿骨つなぐボルトや天高し
移されしポストを探す月夜かな
煮返したスープがうまい秋の風
栗食うてぐだぐだ言うて嫁げさう
草書なす魂の飛跡や霧の中

平成二七年十月号

蚊の姥

佐怒賀正美

あたり払ふ台風の目や奥淡海

竹生島

蚊の姥と磴も半ばや湖の島

竹生島・宝物殿

宝玉負ふ蓬萊亀から秋ひらく

湖北・菅浦

秋虹や四^し足^{そく}門^{もん}置く浦がかり

余呉湖・天女の衣掛柳

抓み剥がす天衣を夢の秋蛙

平成二七年九月号

谷根千初秋

佐怒賀正美

本行寺（月見寺） 一茶句碑「陽炎や道灌どのの物見塚」あり

句碑越しに人見る猫や百日紅

経王寺 彰義隊を追撃した弾痕が山門に残る

弾痕に入れる小指やいわし雲

なま甘き牛筋カレー処暑の雨

昔住みし下宿

蛸や墓の辺べに棲み夢を追ひし

初秋やすぐに出てくる愛玉子

※愛玉子…台湾の果物の種を寒天状にしてレモンシロップをかけたデザート

オーギョウチイ

平成二七年七月号

星の恋

佐怒賀正美

葦酒 歓待 核ゴミ 厳禁 青い山

※宮城県加美町田代岳（箕輪山）…放射性指定廃棄物最終処理場候補地

特攻艇 隠せし 洞や 梅雨の 月

※神奈川県三浦市松輪（江奈湾）…父若き日の特攻艇「震洋」訓練基地

板床の 継ぎ目に 不貞 寝黴の 王

八束忌や磯ひよどりの三世（さんぜ）ごころ

星の恋 地球の裏側から 晴れて

平成二七年六月号

新緑

佐怒賀正美

天上も天下も藤のくすくすくす
藤房と戯るるや星くづの真中
藤にして百の支柱や浮かれ魂
宇宙よりうねり立ちたる千歳藤
文挾夫佐恵さん一周忌
新緑や百寿ののちの一周忌

平成二七年五月号

空豆

佐怒賀正美

つちふるや水先人は飛び移り
こめかみも亀の首根も春暑し
肩と背と乗るもの脱いで竹の秋
ひかがみに銀座の微雨や猫の妻
空豆にフアラオの眉の如きもの

(一部「現代俳句」6月号と重複)

平成二七年四月号

春の蛇

佐怒賀正美

桃の花たつぷり載せて内航船
星芒や砂漠をすべる春の蛇
マチスならどう描く花の坂の奥
小火ほどの人の屯や花見坂
花曇小さき犬によく出合ふ

平成二七年三月号

蜜蠟

佐怒賀正美

切山椒含羞の詩の師をしのぶ
獅子舞の海のうねりの光撒く
蜜蠟で塗る船室に春の夢
望郷の三幕あたり春炬燵
塵埃のありて虫も人もぬくし

平成二十七年一・二月号

羊の歌

佐怒賀正美

この国に『羊の歌』や去年今年

エスプレッソつむ鍾として飲む十二月

歳晩や色仕掛け出る大歌舞伎

戻りたる猫の背伸びやクリスマス

蜜柑狩みんな刃物を持ち歩く